

### 3 芝公園の特徴的な空間構成

芝公園の特徴的な空間構成を確認するため、歴史・文化等の視点から「広域」、「中域」、「狭域」の三つのスケールに分けて整理する。「広域」はおおむねの江戸市街の範囲とし、「中域」は太政官布達の公園区域及びその周辺の範囲とし、「狭域」は芝公園の中心部（1号地～3号地等）の範囲とする。

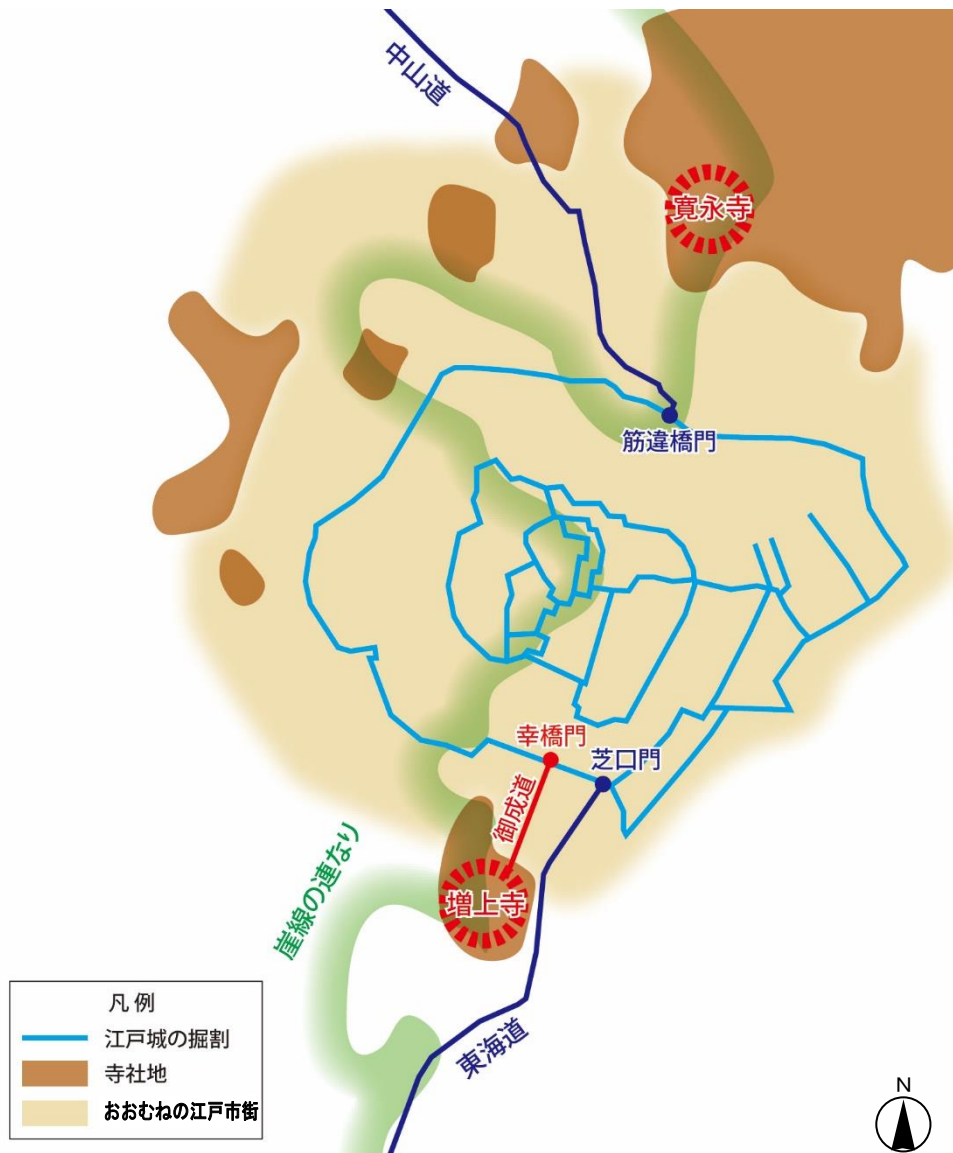
#### 1) 広域で見た芝公園

##### ① 江戸時代

増上寺は、1590年（天正18年）に、江戸徳川家の菩提寺となり、1598年（慶長3年）に、現在の武蔵野台地の東端の南北につながる崖線上の位置に移転された。

増上寺は、上野の寛永寺とともに、江戸城を中心とした城下町の玄関口に位置し、東海道街道筋（現在の京浜東北線付近）から見ると、扇状の崖線の緑を背景に、増上寺本堂が鎮座していたことから、東海道から江戸に入る境界となる要の場所であった。

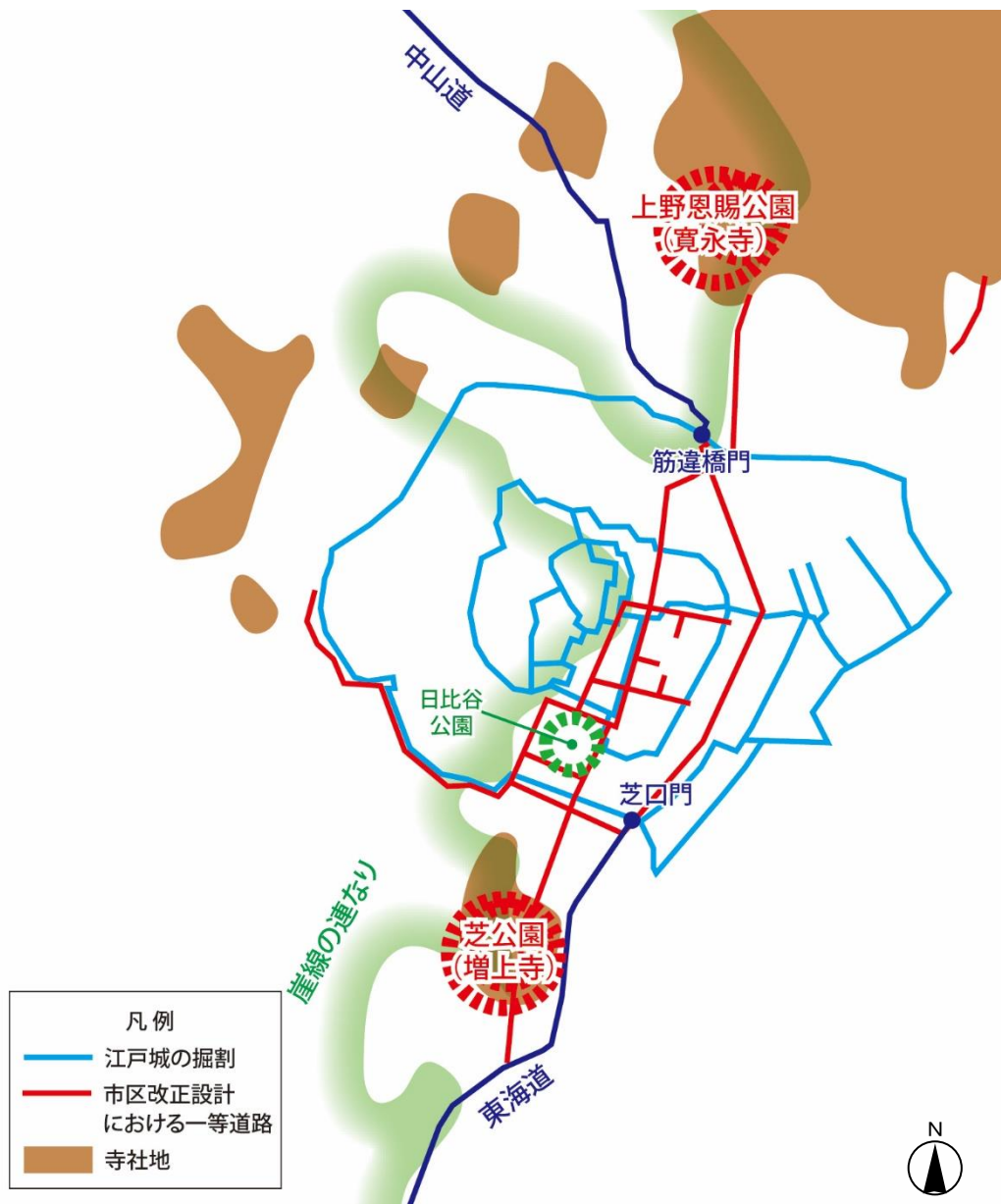
1638年（寛永15年）頃には、江戸城内郭や外濠の工事が完了し、寛永末年（1640年頃）までには、江戸城を中心に一里（約4km）四方にまで、市街地が広がった。



(江戸期)

## ②明治時代

1873年（明治6年）の太政官布達により、増上寺境内域（芝公園）、寛永寺境内域（上野公園）等が、日本初の公園に指定された。また、1888年（明治21年）には、今日の「都市計画」である「市区改正設計」（市区改正条例の施行）により、上野公園と芝公園を結び、都心を貫く一等道路（日比谷通り等）が位置付けられた。市区改正計画は、皇居前広場、日比谷公園、霞ヶ関官庁街、丸の内オフィス街など、今日の東京の中心部の原形となる計画で、この中央部から東京の西の玄関口である増上寺と直結するように、一等道路は計画された。





### ③現代

江戸時代において、芝公園（増上寺）は、上野恩賜公園（寛永寺）とともに、江戸城を中心とした城下町の南北の玄関口に位置していた。現代においても、芝公園は、羽田空港から東京都心へ向かう東京モノレールの終点「浜松町駅」に近接し、成田空港から都心に向かう成田スカイアクセス線等の終点「京成上野駅」は上野恩賜公園内にあり、海外からの来訪者にとって、始めに訪れる東京の玄関口となっている。

また、日比谷公園などの都市公園や皇居外苑の整備、六本木・虎ノ門地区など民間開発に伴う緑化空間の整備などにより、武蔵野崖線と合わせて、緑のつながりが形成されている。



(現代期)



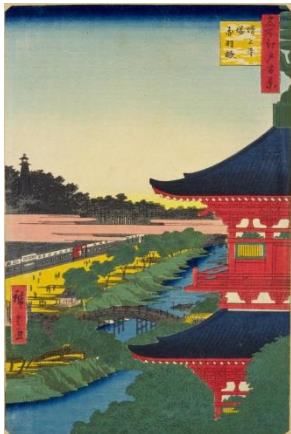
## 2)中域で見た芝公園

### ①江戸時代

江戸時代には、東海道と将軍の参拝経路であった御成道が南北を貫き、これに直行して大衆の参拝経路である大門通りが位置し、背景の崖線の緑とあいまって地域の骨格を形成していた。また、増上寺本堂や霊廟などを中心に、それらを維持・運営する子院や学寮が周辺に集積し、その外側は大名屋敷や町人地となっていた。増上寺と周辺の子院や学寮は、三解脱門などの門や練塀などにより境界は明確で、本堂や霊廟などの領域は閉鎖的な空間となっていた。御成道は、三つの霊廟につながる厳粛な儀式的空間としての役割を担い、また、大門付近は、芝居小屋や市などが立ち、様々な商店もあり、多くの人でにぎわっていた。



天保改正御江戸大絵図



名所江戸百景 増上寺塔赤羽根



江戸百景余興 芝神明増上寺



芝三縁山増上寺之図



芝神明宮境内にて  
六波羅観世音開帳参詣群集の図

出典： 国立国会図書館デジタルコレクション（中段、下段左、下段中央）、東京都江戸東京博物館所蔵（下段右上、下段右下）



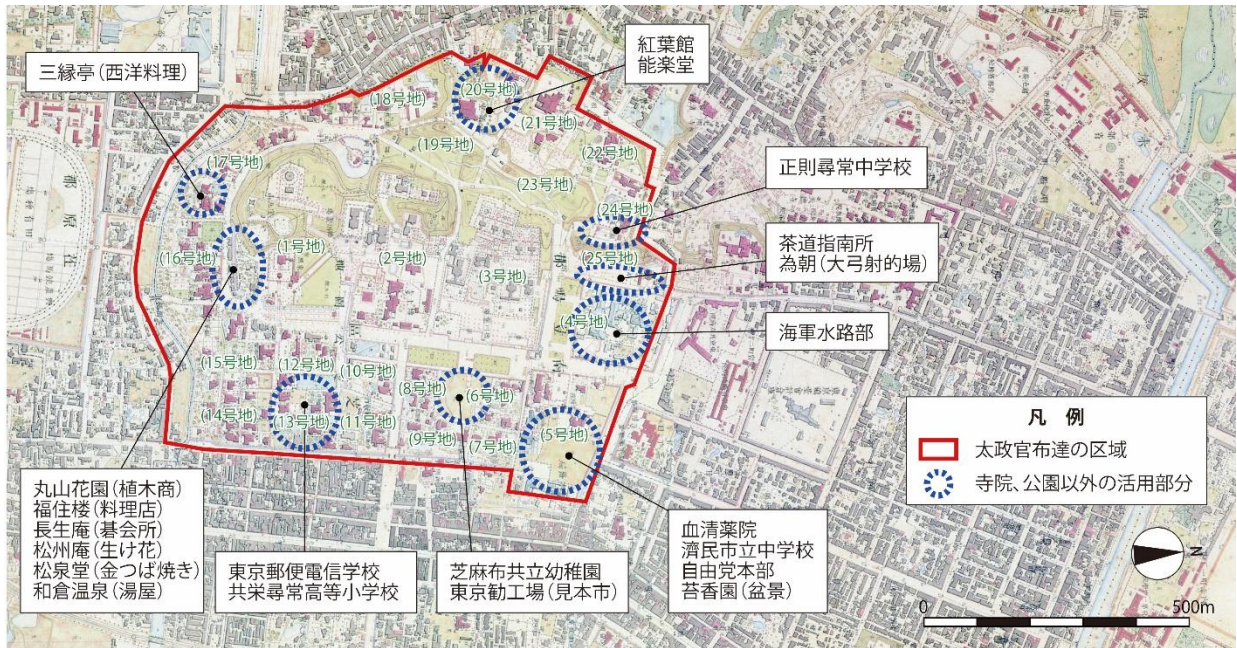
## ②明治時代

1868年（明治元年）の新政府の神仏分離の達しにより、境内の幸稲荷や東照宮が独立し主要な鎮守が合祀され、残された旧社殿も翌年には全てが除却・売却されるなど、境内に見られた鳥居や壮麗な社殿などは消失した。また、増上寺は、戊辰戦争 1868～1869年（明治元年～2年）の被災は免れたが、寺社地の一部が軍に接收され、その後開拓使の出張所や仮学校、寄宿舍などへ転用された。

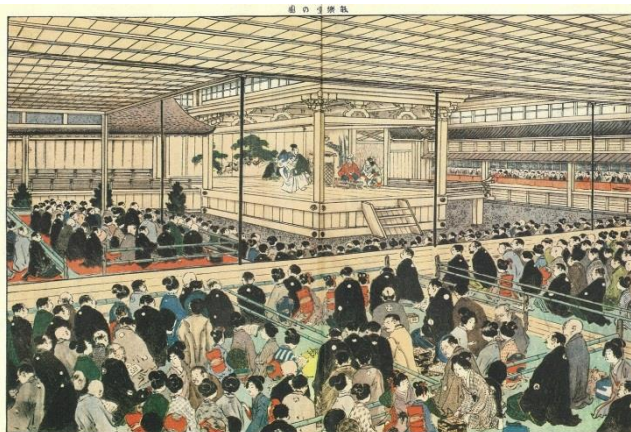
1873年（明治6年）の太政官布達により公園に指定され、子院などの借地・借家、茶屋や社交場等から借地料の徴収などが行われ、公園の運営費に充てられたことは特徴的である。

1881年（明治14年）には、20号地に会員制料亭として紅葉館が整備され、能楽堂が併設された。

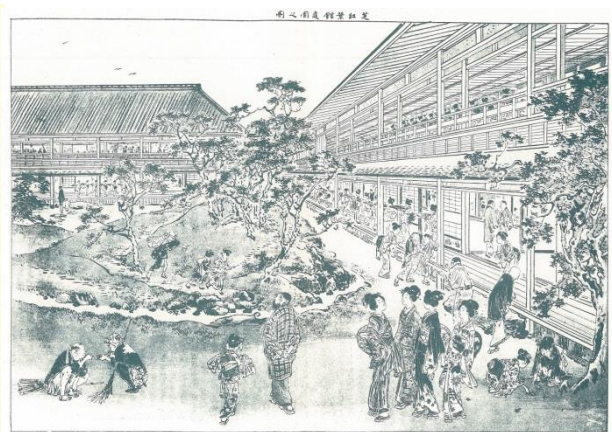
1878年（明治11年）には、現在の外苑東通りが開通、翌年には芝園橋が開通、1892年（明治25年）には芝園橋から東照宮前までの開通が決定、1901年（明治34年）には日比谷通りの整備のため御成門が移設されるなど、道路整備が進められた。1909年（明治42年）には浜松町駅が東海道本線品川～烏森間開通と同時に開業した。



明治時代の寺院、公園以外の活用状況



能楽堂の図



芝紅葉館庭園の図

出典：国土地理院の古地図コレクション「東京府武蔵国芝区芝公園地近傍」に太政官布達の区域等を追記して掲載（中段）、都立図書館所蔵「新撰東京名所図会」（下段左、下段右）